2018年
国立公園の訪日外国人利用者動向について

満喫プロジェクトでは、国立公園の自然の保護と利用の好循環（地域に経済効果をもたらし、一層の自然環境の保全に再投資）を目指しています。

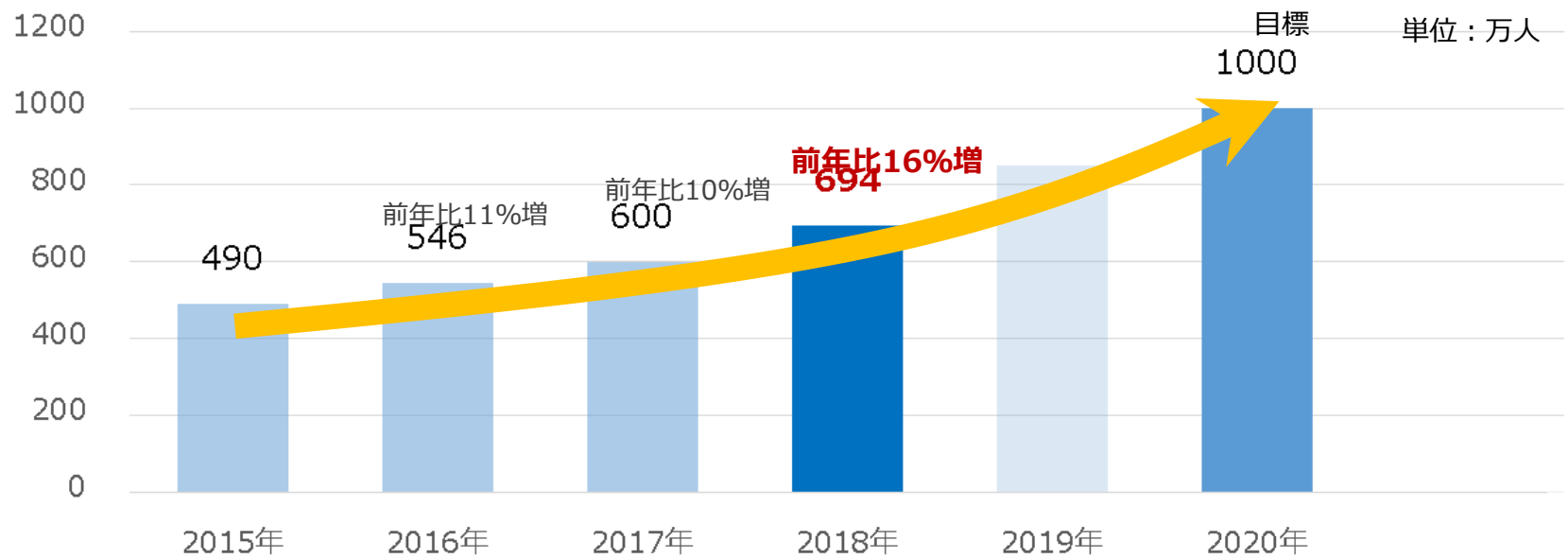
このため、利用者数だけでなく国立公園における消費額や満足度についても動向をとりまとめました。

1．国立公園訪日外国人利用者数の推計結果

2．国立公園の質の指標に係る調査結果

1．国立公園の訪日外国人利用者数の推計結果

- **平成30（2018）年の国立公園の訪日外国人利用者数**は**694万人**と推計。
- **国立公園全体で前年比94万人増（15.7%増）**となり、**国立公園満喫プロジェクト開始以来最大の伸び**。全国の訪日外国人旅行者数の伸び率（8.7%増）を上回る伸び。
- **北海道地域**（利尻礼文サロベツ、知床、阿寒摩周、釧路湿原、大雪山、支笏洞爺）においては、**北海道胆振東部地震等があったものの前年比19.5%増**。一方で、近畿・中四国・九州北部の一部においては、前年と比べ減少している国立公園もあった。



2．国立公園の質の指標に係る調査結果

- 先行的・集中的に取組を行う８公園及び8公園に準じる3公園を訪問した訪日外国人利用者を対象に、満足度、旅行消費額、宿泊日数等についてアンケート調査を実施。
- 滞在全体の**満足度**は、7段階で最も高い**“大変満足”の割合が48.5%**（昨年度38.1%）となった。一方、”何とも言えない”“やや不満”,“不満”,“大変不満”を足した**不満寄りの割合は3.6%**（昨年度4.5%）となり、**全体的に満足度が向上**。
  全般的に自然景観に評価が高く、多言語対応、交通、お土産、食事等が低い傾向。
- 国立公園内での**旅行消費額は66,496円**（昨年度67,239円）となり、大きな変化は見られていない。費目別には、“宿泊費（25,955円）”,“買い物費（12,316円）”,“飲食費（11,241円）”の順に多い。宿泊費は増加（昨年度16,147円）。
- **宿泊日数は、国立公園内で1.9泊**（昨年度1.2泊）、**周辺地域を含めて4.5泊**（昨年度3.5泊）となり、泊数がやや伸びている。
- 同一公園の来訪回数が**2回以上のリピーターは15.9%**（昨年度16.1%）。

※国立公園による地域経済への経済効果の分析についてはDMO等他の主体による調査結果と合わせ行うことが必要。

質の指標	2018年度	（2017年度）
1）国立公園滞在の満足度（“大変満足”の割合）	48.5%	38.1%
2）国立公園での旅行消費額	66,496円	67,239円
3）国立公園内及び周辺地域における宿泊日数	4.5泊	3.5泊
4）同一公園のリピーター率	15.9%	16.1%

※2017年度調査結果は先行8公園、2018年度調査結果は支笏洞爺、中部山岳、富士箱根伊豆を加えた11公園のもの。その他、調査時期や手法が異なるため、単純な比較ができない点に留意が必要。

（参考）国立公園の訪日外国人利用者数の推計方法について

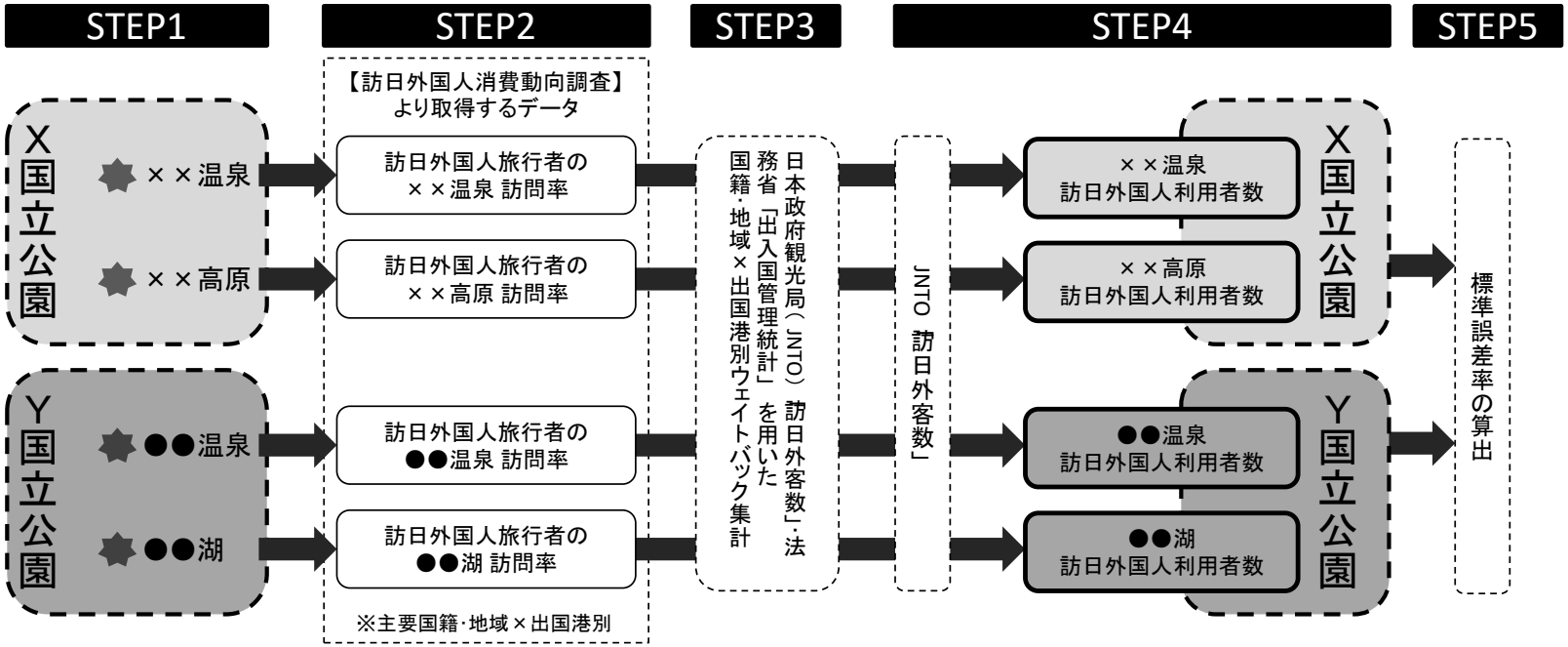
（１）推計方法

①訪日外国人消費動向調査の「訪問地選択肢コード」のうち、国立公園内の観光地等を抽出（680の訪問地選択肢コードのうち139を抽出）

②訪日外国人消費動向調査における訪問地ごとの選択率（当該訪問地の回答数／有効回答数）を算出。

③訪日外国人の母集団構成に合わせるため、上記②について国籍・地域別及び出国港別ウェイトバック*を実施（平成29年以前は国籍・地域別ウェイトバックのみ。）。
*日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」及び法務省「出入国管理統計」をウェイトとして使用。

④JNTO「訪日外客数」の総数に、上記③のウェイトバック後の選択率を乗じ、推計。



（注）「訪日外国人消費動向調査（全国調査）」について

①調査対象者：日本を出国する外国人（滞在期間１年未満）

②調査地点：17空海港の国際線搭乗待合ロビー
※新千歳空港、函館空港、仙台空港、東京国際空港（羽田）、成田国際空港、小松空港、富士山静岡空港、中部国際空港、関西国際空港、広島空港、高松空港、福岡空港、鹿児島空港、那覇空港、関門（下関）港、博多港、厳原港

③目標サンプルサイズ：１四半期当たり7,830票

④調査方法：外国語会話可能な調査員による聞き取り調査

（２）推計方法の課題・留意点と推計・公表に当たっての工夫

①訪問地の回答数のわずかな差で推計値が大きく変動する可能性がある（特に、当該回答数が小さい国立公園の推計の場合）
→全公園の推計値の一覧において、推計値の幅（95%信頼区間）を記載。推計値と実感の乖離を埋める工夫をした。あわせて、実感との乖離を埋めるとともに、各公園における現状・傾向の分析に資するよう、「宿泊旅行統計調査」にもとにした国立公園内の外国人の延べ宿泊者数の推計値を参考として併記した。

②「訪日外国人消費動向調査」の調査対象空海港が少ない場所（例えば、山陰地方）において補捉率が低くなっている可能性がある。

③「訪日外国人消費動向調査」における「訪問地選択肢コード」が必ずしも国立公園の範囲を網羅していない。
→平成31年開催の第10回国立公園満喫プロジェクト有識者会議での指摘を受け、集計する訪問地コードを再度精査し、平成30年推計において、有馬温泉（兵庫県）、下関（山口県）、門司（福岡県）を追加した。

※本推計は、基本的に、国立公園全体の傾向を把握するための指標として活用するものであり、各国立公園や地域の動向分析には、DMO等各地域における調査の実施・活用をすることが望ましい。

（参考）国立公園の質の指標に係る調査(2018)の実施概要について

a）実施手法

- **先行8公園**（阿寒摩周、十和田八幡平、日光、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、慶良間諸島）**及び8公園に準じる3公園**（支笏洞爺、中部山岳、富士箱根伊豆）において実施
- **モバイル方式**（現地で観光客自身がスマホ等で回答）および**紙調査票方式**（現地留め置き）
- 各公園の状況に応じて、両方式を組み合わせて実施
- 言語は、日本語・英語・韓国語・中国語（繁体字・簡体字）に対応

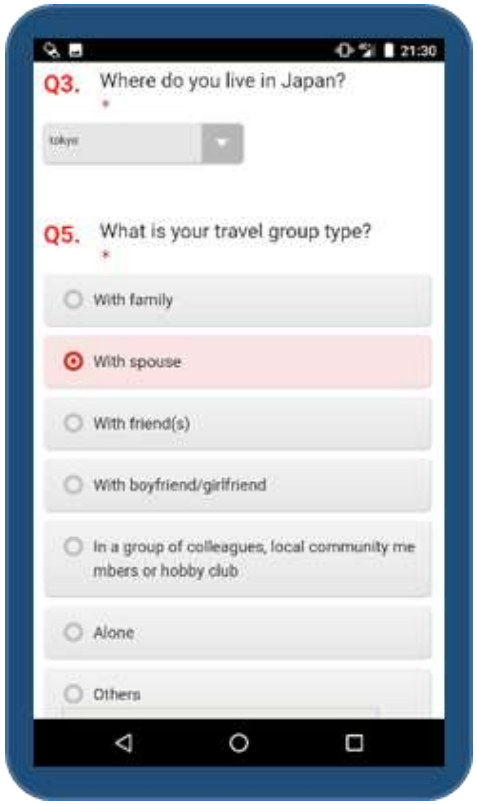
b）実施時期

- 2018年 5月より順次実施～2019年 2月まで
  ※支笏洞爺・中部山岳・富士箱根伊豆は6月下旬～7月より順次実施

c）アンケート回収数

- 外国人　3,848票
- 日本人　7,526票

※ 日本人/外国人は、日本語/外国語での回答を指す。

d）調査項目

- 公園訪問の内容
  活動／訪問箇所／**支出額**／**宿泊日数**／**訪問回数** 等
- 訪問に対する意識
  満足度（7段階）／満足（自由記述）／改善点（自由記述）等
- 回答者属性
  性・年代／職業／世帯収入／同行者／訪日回数 等